

「埋文センターのめいひん」展示資料一覧

	遺跡名	所在地	資料名	時代	解説
1 動かさない！					
	下坂本清合遺跡	鳥取市気高町	漆塗手箱	中世	目の細かい布に土を混ぜた漆を下地として塗り、その上に漆を4層塗り重ねたもの。つぶれて原形をとどめないが箱と考えられる。
	橋本漆原山遺跡	米子市	銅銭に付着した紙	中世	中世の地鎮遺構から出土した銅銭に付着した紙。銅銭を包んでいたものとみられる。分析の結果、「麻紙」であることが判明した。
2 大きすぎる！重すぎる！					
	殿河内上ノ段大ブケ遺跡	大山町	石柱	縄文時代	穴に立ててあったもので、周囲には石が集められていた。平らな面も滑らかに加工されており、祭祀などに使われたものか。84.5kg。
	坂長第6遺跡	伯耆町	金床石	古代	郡の役所付属工房で、鉄製品を加工するときの台に使ったもので、側面や上面に鉄がこびりついている。重さ144.5kg。
3 こんなものもあった！					
	大桒遺跡	鳥取市	石棒	弥生時代	弥生時代前期の流路内から見つかった。多角柱状石棒は鳥取平野で2例目、結晶片岩製石棒は中国山地を介してもたらされた。
	梅田萱峯遺跡	琴浦町	石剣	弥生時代	約460m離れた梅田15号墳墳丘盛土出土資料と接合した。離れた遺跡間で遺物が接合する例は珍しい。
	小畑古墳群	岩美町	馬具	古墳時代	5基の横穴式石室を持つ古墳群から出土したもので、まとまった馬具資料としては県内有数のもの。
	小畑古墳群	岩美町	須恵器	古墳時代	石室内で完全な形で出土したもの。自然釉が見事な逸品。
	高住牛輪谷遺跡	鳥取市	銅鈴	古墳時代	馬に付ける鈴で、県内唯一の出土例。サビもなく、製作時の研磨痕も確認できる。
	笹津乳母ヶ谷第2遺跡	琴浦町	玉類	古墳時代	段状遺構から出土したもので、糸で連ねた状態が復元できる。
	吉谷中馬場山遺跡	米子市	「牧」墨書土器	古代	自然流路内から出土した須恵器の皿で、底面に墨で「□牧」と書かれる。「牧」の字は県内唯一の例。
	青谷横木遺跡	鳥取市青谷町	木とんぼ	古代	スギ板の両面を削ってプロペラ状にした製品。奈良時代～平安時代のもので、平城京に類例がある程度。
	松原小奥遺跡	鳥取市	ガラス瓶	近世	近世の墓から出土。キセルや寛永通宝などとともに木箱に入れられていたと見られる。
	松原古墳群	鳥取市	グリコのおまけ	近代	陶製品で、背面に「クリコ」の文字がある。飛行服に航空帽、背囊という出で立ちで、昭和10～15年頃のものと考えられる。